

# 2023年4月教会便り 美唄～砂川

主任司祭 ナルチゾ神父

4月は2日から「大週間」と呼ばれていた「聖週間」を迎えます。主の過ぎ越しの神秘を中心として、キリストの救いのわざ全体を記念する一週間です。

4月9日は復活祭です。教会では、1年を周期としてキリストの神秘全体を展開しますが、復活祭はその典礼暦年の頂点です。復活の主日から復活の第2主日までの8日間は、どんな祭日、祝日があっても復活の祝いだけを祝います。また、復活節は50日間祝われます。この季節は、自然をはじめ、いろいろのことが「新しいいのち」、新しい旅の出発を感じさせてくれるでしょう。実に、復活節はすべてにおいて喜びに満ちあふれています。

典礼の朗読も喜びに満ちあふれて宣教に出かける使徒たち、教会の誕生と成長を伝える使徒言行録に、毎日触れさせてくれます。教皇フランシスコは、宣教への熱意・信者の使徒的情熱についての連続講話を始められました。教皇はの中で「イエスの弟子の共同体は、実際、使徒として、また宣教者として誕生しました。」(第1回講話)とっておられます。復活節に宣教としてのテーマを深めるのは意味あることです。

教皇のこの講話は、今年の復活節をととても豊かにしてくれることでしょう。

また、この月、教会共同体に新しく加わった方と心を合わせ、教会メンバーであることを意識しながら、ともに歩んでまいりましょう。(参個:Laudate)



## 4月の主な典礼・ミサ時刻

日	曜	典礼暦	担当
2	日	受難の主日(枝の主日)	9:00 ミサ 先読み:高塚 第1:安藤 第2:本田 答唱詩編:間野/高塚 オルガン:野呂
6	木	聖木曜日(主の晩さん)	19:00 ミサ 先読み:多田 第1:室井 第2:西川薫 答唱詩編:三上夫妻 オルガン:未定
7	金	聖金曜日(主の受難) 大斎・小斎	19:00 ミサ 先読み:高塚 第1:高塚 第2:野呂 答唱詩編:三上夫妻 オルガン:未定
8	土	聖土曜日(復活徹夜祭)	19:00 ミサ 神父様が当日決めてくださいます
9	日	復活の主日 アレルヤの祈り開始 P13 キリストの復活を祝う	9:00 ミサ 先読み:多田 第1:古野 第2:安藤 答唱詩編:高塚/多田 オルガン:野呂
16	日	復活節第2主日(神のいつくしみの主日) P14 キリストの復活をたたえる	9:00 ミサ 先読み:野呂 第1:西川薫 第2:三上朋 答唱詩編:間野/古野 オルガン:斎藤
23	日	復活節第3主日 P14 キリストの復活をたたえる	9:00 ミサ 先読み:高塚 第1:本田 第2:多田 答唱詩編:三上夫妻 オルガン:野呂
30	日	復活節第4主日、世界召命祈願の日 P14 キリストの復活をたたえる	9:00 ミサ 先読み:多田 第1:西川薫 第2:間野 答唱詩編:古野/安藤 オルガン:野呂

◆平日のミサ 月曜日～金曜日 6:00、土曜日 10:00

◆今月の霊名記念日の方…おめでとうございます(敬称略)

16日 聖ベルナデッタ

安藤静江

29日 聖カタリナ

尾崎康子、古野聖奈、多比良桂子

#### ◆お知らせ

- ・ロザリオ会は後日連絡します。
- ・毎週水曜日 10:00～ 聖書に親しむ会を実施しています。

砂川 花当番	
8日(土)	多比良
15日(土)	岡本
22日(土)	古野
29日(土)	高塚

#### ◆その他

- ・ 9日(日) 御ミサのあと簡素な御復活祝いを予定しています。
- ・ 16日(日) 信徒会総会を予定しています。

#### ◆幼稚園関連

- ・ 10日(月)・・・始業式
- ・ 12日(水)・・・入園式

### キリストは自転車で宣教

今は、車の時代で、これがなければ何も活動ができない、ということになっています。砂川にカトリック教会が創立された時代は、まだ、一般の人は車を持っていませんでした。そんな中、ヤヌワリオ神父様は自転車で宣教活動をされておりました。その前は、馬によつての宣教でしたでしょう。昔は、大変だったでしょう、とよく言いますが、大変なのは今も全く同じです。便利な車のために、かえって忙しくなりました。

私が中学3年の時(昭和26年=1951年)に、砂川教会にとめてもらい、中学を卒業し、高校にまで通わせていただきましたが、当時ヤヌワリオ神父様は、それこそ自転車で、美唄、芦別まで出かけておりました。上砂川、歌志内は勿論です。たくさんの信仰の種を蒔かれました。

今、同じように、ナルチゾ神父様がキリストの教えを携えて走り回っております。

さて、このような宣教の努力の結果はどうなっているのでしょうか。目には見えませんが、私たちにわかりません。しかし、カトリック砂川教会、天使幼稚園による宣教の結果は、地下水、伏流水となって、流れております。

昔、日本で宣教されたフランシスコ・サビエルやその後の宣教師たちは、多くの日本人にキリストによる救いをもたらしました。しかし、日本の政治家達は、天地創造の神、人類愛、人間の尊厳、自由と平等、一夫一妻制などの教えによって信者を増やし、最後は本国から軍隊を呼び、日本を占領するという口実で、キリスト教禁止令を発し、徹底的にキリスト教を日本から退けました。

しかし、皮肉なものです。このキリスト教は、そのような260年間の禁教の間も、中国で宣教しながら、多くの科学技術に関する漢籍書も著作し、それらを日本に伝えたことによって、禁教令下にあっても日本の学者たちに読まれていました。そのことについて2018年の「江戸の骨は語る」の中で、著者の篠田謙一氏(現 上野国立科学博物館長)は書いています。

「彼の来日は江戸に西洋科学をもたらすきっかけとなり、やがて来る明治時代における日本の科学・技術発展の基礎を形成することになった。その延長線上に現在の科学があり、またシドッチを再びわれわれの前に出現させることになった。来館者には300年という歴史の流れも感じてもらいたいと考えた。」(岩波書店 P.133)

上記の「彼」とは、1708年に宣教のために屋久島に上陸し、江戸に送られ、1714年に殉教(牢死)したシドティ神父です。そうなんです。キリストは、ちゃんとご自分で宣教なさっているのですよ。砂川も同じです。ちゃんとキリストが、地下水、伏流水として人々を生かしておられます。神に感謝です。これからも、キリストの協力者として、結果をキリストに任せて、信者として頑張らしましょう。キリストとともに祈りましょう。

砂川教会と幼稚園の皆さんの上に、神様からたくさんの必要なお恵みがありますように祈っております。



2023年3月9日 瀬田の聖アントニオ修道院にて 続橋和弘